

登録No. G-008
 登録名 Ramucirumab療法
 催吐性リスク 最小リスク
 適応疾患 胃癌 肝細胞癌
 投与スケジュール

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	マリン酸カドフェリンシ生食	5mg/body 50mL/body		d1	d.i.v.	30min	
Rp.2	ラムシルマブ生食	8mg/kg 250mL/body		d1	d.i.v.	初回60min (忍容性良好なら2回目以降30minでも可)	ブドウ糖との混注不可 ワンショット静注禁 0.2又は0.22μmの蛋白透過性のフィルター使用
Rp.3	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	30min (1・2クール目)全開 (3クール目以降)	1・2クール目は経過観察&ラムシルマブフラッシュ用 3クール目以降はラムシルマブフラッシュ用

1クールの期間 2週間
 その他（副作用・PS規定等）

投与基準： ECOG PS：0～1、好中球 $\geq 1000/\mu\text{L}$ 、Hb $\geq 9.0\text{g/dL}$ 、血小板 $\geq 7.5\text{万}/\mu\text{L}$ 、T-Bil $\leq 1.5\times\text{ULN}$
 AST/ALT $\leq 5\times\text{ULN}$ 、タンパク尿：1+以下(2+以上の場合、定量検査で2g未満であれば投与可)
 Ccr $\geq 60\text{mL/min}$ 、INR ≤ 1.5 及びAPTTがULN+5秒以下
 低用量の抗凝固療法を予防用量で受けている患者はINR ≤ 1.5 及びAPTTがULN+5秒以下

肝細胞癌： Child-Pugh A、AFP $\geq 400\text{ng/mL}$

投与量の調整： 有害事象に応じて、8mg/kg \rightarrow 6mg/kg \rightarrow 5mg/kg \wedge 減量

副作用： 高血圧、蛋白尿、出血、インフュージョンリアクション、血栓塞栓症、消化管穿孔、創傷治癒遅延